2012年9月ワークキャンプ@ビシュナプール活動報告書

第2回ワークキャンプの開催 ソーシャルビジネスプロジェクトの受注・物品作成



第2回ワークキャンプを開催した。

また、ソーシャルビジネス PJ が正式に受けた注文の品物を作成した。

【キャンプ日程】

2012/09/15-2012/09/29 (計 15 日間)

【メンバーと渡航日程】

梶田 恵理子・早稲田大学 4 年 (09/02-10/03 キャンプ準備のため、早めに渡航)

高階まりこ・社会人(09/10-10/02)

山本陽介·神奈川大学3年(09/11-10/03)

安田亜希・早稲田大学 4 年 (09/12-10/03)

藤岡春奈・早稲田大学2年(同上)

加藤優人・武蔵野大学2年(同上)

土屋 菜月・早稲田大学2年(同上)

中沢健司・早稲田大学3年(同上)

久高すみれ・早稲田大学2年(同上)

朴ミョンジン・早稲田大学5年(09/12-ケーララ州でのインターンのため、残留)

【渡航の目的】

ワークキャンプ

- ◆ワークプロジェクト
- ・25軒の家の屋根の修繕・新築を行う。
- ・井戸の周りの水浴び場の舗装
- ・ハンセン病の後遺症によって手足が悪いコロニーの人々の家の舗装
- ◆エンターテイメントプロジェクト
- ・村人との運動会を開催
- ・近隣に住む人々をコロニーに招いて啓発を兼ねたパーティを行う。
- ◆リサーチプロジェクト
- ・コロニーの各家庭の家族構成などを訪問する形で調査する。

ソーシャルビジネスプロジェクト

Re:Bit から受けた注文物品の作成を行う。

物品はRe:Bit 主催のLGBT成人式2013で販売・配布予定。

【成果】

ワークキャンププロジェクト

- ◆ワークプロジェクト
- ・目的で挙げた25軒の家の屋根の修繕・新築の他に、第1回ワークキャンプで修繕した25の屋根の修繕に欠陥が見つかったため、それを改めて修繕した。
- ・屋根の修繕は、プロのワーカーでないとできないことが多く、そのためキャンパーができることがかなり限られていた。そこでキャンパーだけでできることを考え、コロニー内の道路と思われた家屋内外をセメントで修繕した。



◆エンターテイメントプロジェクト

キャンプ中の話し合いの結果、今回のキャンプでは村人間・村人とキャンパー間での関係 づくりが外部の人を呼ぶことより必要だとの結論が出た。通訳をお願いする予定だったインド人キャンパーが運動会までにコロニーに到着できないことになったため、英語を勉強 している中学生の村人に協力してもらう形で開催した。

その結果、共に何かを行う(協働)ことができ、より仲が深まった。



~私たちの無茶振りを快く引き受けてくれて全体のまとめ役をしてくれたゴネスとスレッジ~

・村人とキャンパーのみのパーティを開催した。

結果、今までキャンパーとあまり馴染みのなかった村人や家にこもりがちな村人も参加 してくれた。

これまで、人の前で歌やダンスを披露する機会などが皆無であった村人たちは大いに楽しんでくれた。

キャンパーへのメッセージがこめられた歌を披露してくれた村人もいた。



司会を務めてくれた別のコロニー出身のカーティック

◆リサーチプロジェクト

・各家庭の家族構成・年齢・快復者数・就学状況・収入元・一日の収入額を調べることがで きた。



家庭を訪問して調査を行うまりことカウンターパートナーのオルン氏

インドハンセン病問題は、差別問題だけでなく、ハンセン病問題から派生する貧困・労働・ 就労問題も大きな課題である。今回の調査を行うことで、より現状を把握することができ、 ソーシャルビジネス PJ やエデュケーショナル PJ など、今後の活動に役立てることができ る。しかしながら、各家庭訪問にかけられる時間がかなり限られていたため、項目以上のこのを聞くことができなかった。今後のコロニー訪問・キャンプでさらに関係を築いていき、その過程でより情報を集めていく予定である。

ソーシャルビジネスプロジェクト

- ・安田がキャンプを途中抜けする形で、プロジェクトを進めた。
- ・物品を作成してくれる様々なコロニーから集まった女の子をカウンターパートナーの リタさんと安田でまとめ、無事に期限までに必要数の物品の作成を終えることができた。